

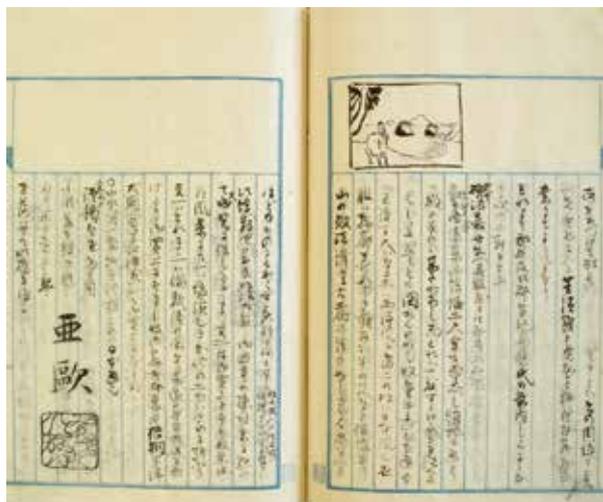
藤岡作太郎

「李花亭日記」美術篇

村角紀子（松江市史料編纂課専門調査員）編

本体価 17,500 円 + 税

● A5 判上製函入 ● 本文 720 頁 ● カラー口絵 16 頁 ISBN 978-4-8055-0855-8 C3071



日記より 須賀川での亜欧堂田善調査 [明治 35 年 8 月 6 日]



藤岡作太郎著『近世絵画史』自筆原稿

百年以上読み継がれた大ロングセラー、『近世絵画史』（一九〇三年）。その執筆背景を刻銘に綴った第一級史料の翻刻。

本書は、公益財団法人石川近代文学館（石川県金沢市広坂）が所蔵する藤岡作太郎関係資料から、明治三十二〜三十六年の「李花亭日記」五冊全文、および自筆稿本「李花亭抄録十二」から紀行文二篇をとりあげ翻刻するものである。（中略）

今日、美術史の文脈で藤岡作太郎の名前が挙がるのは、九割九分までが『近世絵画史』（金港堂、明治三十六年六月初刊）の著者として、と言って過言でない。編者が翻刻にとりかかった第一の理由も、この名著の執筆背景が知りたいという好奇心からだった。前掲の五年間の日記には、まさしくそれが凝縮されている。日々連綿と綴られる作品鑑賞記や画家の掃苔録、考証家や所蔵家達とのやりとりは、彼の本業が国文学者であったことをしばし忘れさせるほどだ。

だが、藤岡と絵画の蜜月は長くは続かなかつた。（中略）明治三十六年以前を藤岡の「美術史時代」とするならば、三十七年以降は「国文学史時代」と言うことができるだろう。明治三十八年十月には本文七二六頁に及ぶ記念碑的大著『国文学全史 平安朝篇』を開成館から刊行し、これにより国文学分野初の論文による博士号を得る。そうした時代の日記翻刻や註釈は、残念ながら日本近代美術史を専門とする編者の手に余るものだった。本書ではその代わりとして、日記開始以前の紀行随筆から、美術に関連の深いものを選んで加えることとした。（後略）

〔解題〕より

明治期の国文学者藤岡作太郎（1870～1910）の著した明治32～36年の「李花亭日記」（石川近代文学館蔵）、および美術に関連の深い紀行文を選出して翻刻する。作品鑑賞記や寺社拝観記、美術研究者や文学者らとの交流が綴られるなど、名著『近世絵画史』（明治36年刊）の執筆背景や、明治期美術界の状況を知るうえでの貴重な史料の公刊。

目次

刊行によせて（藤岡知夫）

解題
凡例

I 紀行文 「李花亭抄録十二」より

道行草

冬のいでゆき（四国紀行）

◇資料 「李花亭抄録十二」 目録

II 日記 「李花亭日記」

李花亭日記 明治卅二年（含・明治三十一年十二月）

李花亭日記 明治卅三年

李花亭日記 明治卅四年／李花亭漫録

明治卅五年日記

明治卅六年日記（含・別冊手帳）

III 解説

解説 藤岡作太郎の絵画史ネットワーク

—— 郷里・帝都・旧都 ——

年譜

資料 藤岡作太郎関係資料目録

（公益財団法人 石川近代文学館所蔵

村角紀子編、同館監修）

主要参考文献

あながき

索引



藤岡作太郎 明治31年春頃

藤岡作太郎（ふじおか・さくたろう）

明治三年七月十九日（一八七〇年八月十五日）

（明治四十三年（一九一〇年）二月三日

国文学者。加賀国金沢（現・石川県金沢市）生まれ。号は東圃・李花亭・枇杷園。

一八九〇年、第四高等中学校を卒業。同窓生に西田幾多郎、鈴木大拙（貞太郎）がおり、藤岡とあわせて「加賀の三たろう」と称される。

東京帝国大学国文科卒業、第三高等学校教授のち、一九〇〇年、東京帝国大学助教授。幅広い考察と優れた批評を流麗な文章で執筆し、国文学の近代的研究の方法を提唱した。三九歳で死去。

〈主要著書〉

日本風俗史（平出鏗二郎共著 東陽堂 一八九五年）

近世絵画史（金港堂 一九〇三年、

のち創元社、ベリカ社）

国文学全史 平安朝篇（東京開成館 一九〇五年、

のち平凡社東洋文庫、講談社学術文庫）

国文学史講話（開成館 一九〇八年）

編者略歴

村角紀子（むらかど・のりこ）

一九七二年 石川県金沢市出身

一九九七年 筑波大学大学院修士課程芸術研究科

美術（日本画）専攻修了

二〇〇一年 東京芸術大学大学院修士課程美術研

究科芸術学（日本東洋美術史）専攻

修了

二〇〇六～二〇〇八年 島根県立美術館学芸員

二〇一六年より 松江市史料編纂課専門調査員

関連書籍

蜷川式胤「八重の残花」

米田雄介 編 本体価 12,000円＋税

正倉院宝物殿の本格的調査研究の資料である、明治政府に出仕していた好古家蜷川式胤の日記「八重の残花」を翻刻、現存する正倉院所蔵の宝物とあわせて詳述する。正倉院宝物のみならず日本の文化財研究に広く貢献する一書。

A5判上製函入 カラー図版64頁 本文268頁
ISBN 978-4-8055-0553-4 2018年5月刊

五姓田義松史料集

角田拓朗 編 本体価 16,500円＋税

洋画家・五姓田義松の日記・書簡、支出明細や執筆料、留学時代の覚書など、多岐にわたる資料を収集・再構成し、編者による解説を併載。幕末から明治の動乱期に生き、10年にわたる滞欧を果たした五姓田義松の生涯を再評価し近代日本美術史への新知見を提示する。

A5判上製函入 本文584頁 口絵16頁
ISBN 978-4-8055-0744-5 2015年9月刊

関野貞日記

【在庫僅少】

関野貞研究会 編 本体価 19,000円＋税

古建築研究のパイオニアであり、近代の文化財保護の基礎を築いた関野貞(1868～1935)の記した日記・日録の翻刻。近代日本の文化財行政の発展過程が克明かつ具体的に記述されている重要資料。

A5判上製函入 本文834頁 口絵4頁 挿図272点
ISBN 978-4-8055-0586-1 2009年2月刊

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは